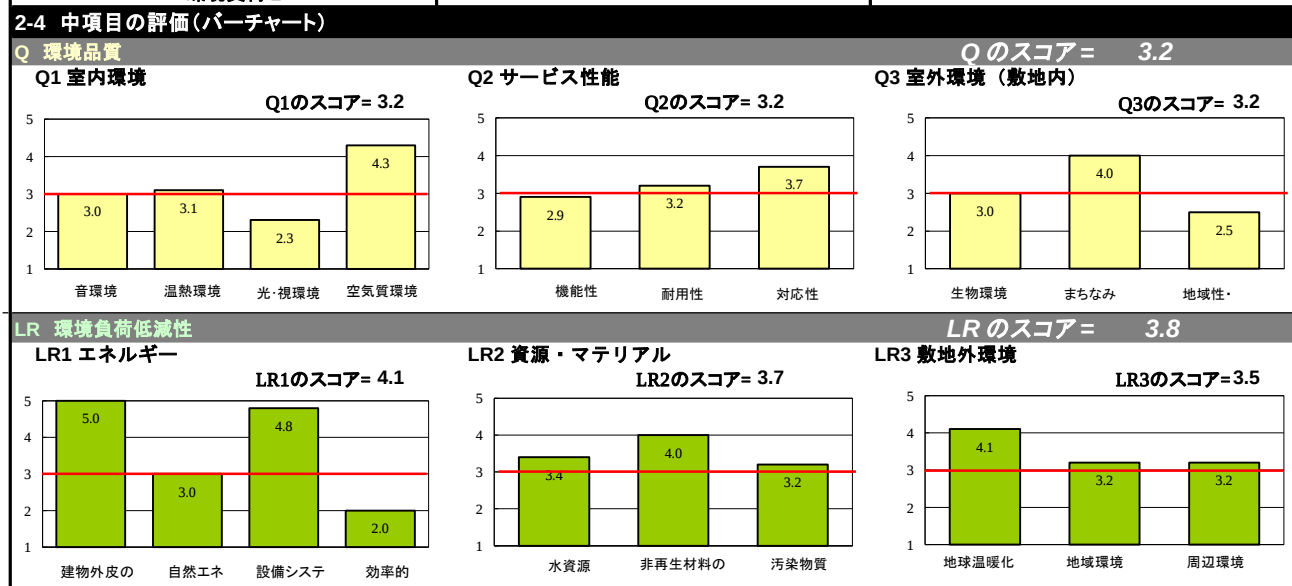
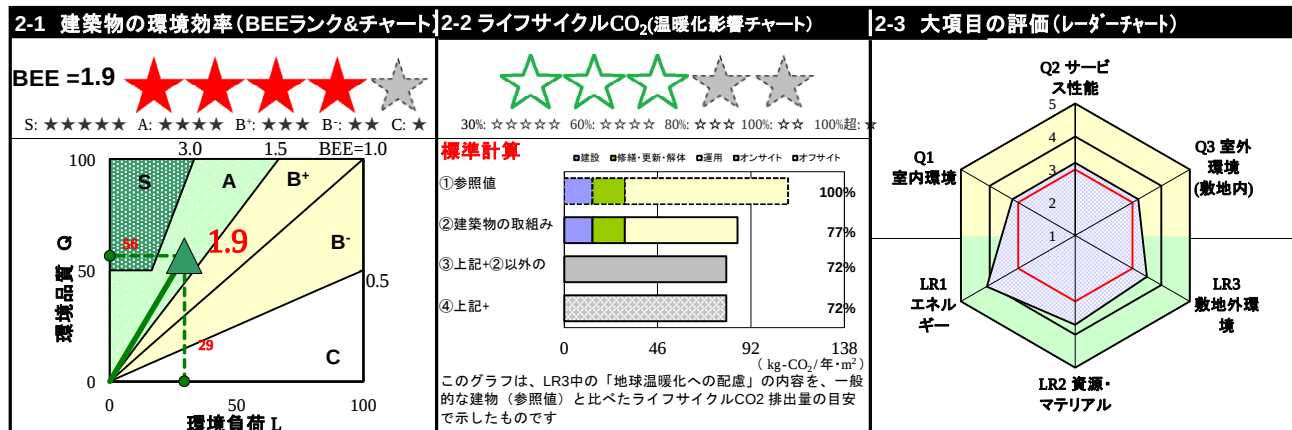


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	日東電工茨木事業所 新実験棟(R3棟)建設工事	階数	地上4F、地下0F
建設地	大阪府茨木市下穂積	構造	S造
用途地域	準工業地域、二種住居地域、準防火地域	平均居住人員	140 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年11月 予定	評価の実施日	2025年2月5日
敷地面積	1,461 m ²	作成者	春日達彦
建築面積	711 m ²	確認日	2025年2月10日
延床面積	2,588 m ²	確認者	笠原英樹



3 設計上の配慮事項		
総合		
大阪府茨木市に建設される研究施設の計画である。耐用年数の長い外装、内装、配管材料を採用し建物の維持管理に配慮しつつ、敷地内の既存樹木の保存、植栽の積極的な採用、外観パースの作成により、まちなみにも配慮している。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
内装材には全面的にF☆☆☆☆を採用し、また全館禁煙とすることで、空気質環境に配慮している。	耐用年数の長い外装、内装、配管材料を採用し建物の維持管理に配慮している。また、階高や壁長さ比率に余裕を持たせフレキシビリティにも配慮している。	敷地内には既存樹木の保存をするなど、積極的に植栽を設けている。また、外観パースを作成し、景観検証を行うなど、まちなみに配慮している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
高効率な設備システムを導入し、省エネルギーに配慮している。	節水器具の採用や再利用できるユニット部材の採用、使用材料を削減することで、省資源に配慮している。	燃焼機器は使用せず、大気汚染防止に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称		日東電工茨木事業所 新実験棟(R3棟)建設工事							
建設地		大阪府茨木市下穂積							
用途／区分		事務所							
【評価結果】	CASBEE 総合評価						A		
①	CO2削減						4		
②	みどり・ヒート アイランド対策						3		
③	断熱性能						5		
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分		評価対象外			評価対象外		
④	エネルギー消費性能						5		
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分		評価対象外			評価対象外		
		非住宅建築物又は 複合建築物の非住宅部分					4		
⑤	自然エネルギー直接利用						—		
	再生可能エネルギー	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—		—
	利用施設の導入状況	太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—

	エネルギー消費量の報告	報告しない
--	-------------	-------

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮	4.1	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出	3.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3.2 敷地内温熱環境の向上	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE LR3 敷地外環境 2.2 温熱環境悪化の改善	3.0	
③ 断熱性能	CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制	5.0	5
④ エネルギー消費性能	CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化	4.8	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用	3.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない

その他		
先進的技術の導入	技術の名称	考慮事項
特に配慮した事項		